



# 二之江の子

令和7年9月1日  
江戸川区立二之江小学校  
第5号

## 「できた」の積み重ねが「やる気」を生み出す —充実した2学期にするために—

校長 大石 吉郎

7月26日(土)に開催された古川まつりには、本校の金管バンドが地域の一員として参加させていただき、今年も子供たちにとって夏の大切な思い出となりました。

夏休み期間中も、保護者の皆様、地域の皆様方に子供たちを見守っていただきました。お陰様で、大きな事故や怪我等もなく始業式を迎えることができ、子供たちの元気な笑顔が学校に戻ってきました。心より感謝申し上げます。



今年の夏も各地で記録的な猛暑日が続く、東京でも猛暑日の連続記録や年間猛暑日数を更新するなどの厳しい暑さの中、各スポーツ選手の活躍は勇気と元気を与えてくれました。

その中でも、甲子園でベスト4になった県立岐阜商業高等学校の横山温大選手の活躍が心に残りました。横山選手は、生まれつき左手の指がないため、グラブは右手にはめて、打球をキャッチするとグラブを左脇に抱え、右手でボールを投げることができます。横山選手は、「ハンディキャップがあっても、こんな大きな舞台でプレーできる」と子供たちに勇気や希望を与える存在になりたいと思っていると話していました。野球を始めるきっかけは、お兄さんのプレーを見て、「ボールを打ってみたいな」と思ったことからでした。横山選手のすごいところは「自分もお兄さんのようになりたい。」と、あこがれをもつだけでなく、ハンディキャップを乗り越えようと、練習に励み「できること」「できたこと」を少しずつ増やし、野球に対する「やる気」がどんどん生み出されたことです。それが夢に向かって前進していく力になり、甲子園での活躍につながりました。

メジャーリーグでの活躍が認められ、アメリカの殿堂入りした、イチロー選手、二刀流で活躍している大谷翔平選手も、小さな「できた」の積み重ねが、「やる気」を生み出し活躍が続けられているのだと思います。

スポーツだけではなく、学習でも同じです。小さな「できた」ことを積み重ねながら「やる気」を生み出し、自信につながりながら充実した2学期を過ごしてほしいです。

最後に、本校の卒業生、パラアスリートの辻内彩野選手ですが、9月にアジアで初めて開催される世界パラ水泳選手権に日本代表として選出されました。パリパラリンピックでの銅メダルに続き活躍を楽しみにしながら、二之江小からエールを送りたいと思います。

今学期も保護者の皆様、地域の皆様のご理解ご協力を引き続き、よろしくお願い申し上げます。



### 東京2025世界陸上

#### —「見て 学んで 走りだせ 世界陸上リアル教室」—

9月13日(日)開幕の「東京2025世界陸上」は、34年ぶりに東京で開催される大会となります。これを機に、会場となる国立競技場で「本物」の雰囲気を感じられる教室が開催されることになりました。本校の希望が通り、5年生がその教室に参加してきます。

当日は、日本のトップアスリートから走り方や体の動かし方などを教えていただく予定です。